

2012年 力を合わせて 平和・命を大切に作る社会へ



を緩和する方針を決めました。今後共同開発された戦闘機などが米軍・NATO軍の

手によって紛争地で使われることになり、日本も深く戦争に手を染めることになります。

このような危険な動きを押しとどめて、憲法の平和の理念を政治に活かすために、力を合わせましょう。

憲法前文より「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。…日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓う」

原発からの撤退、一日も早く

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、いったん過酷な事故が起きれば、十数万の人の避難と数百万人の人の生活に不安と現実的影響を与え続けることを明らかにしました。このような危険な原発から一日も早く撤退し、安全でクリーンな自然エネルギーに転換すべきです。

今年の「こまえ平和フェスタ」で東京大学大学院教授の姜尚中（カンサンジュン）さんは、憲法改定の動きや大震災と原発事故について語り、「政治がわれわれの日常生活から遠く離れていく」「国が



憲法と原発事故について語る姜尚中さん（こまえ平和フェスタ2011、エコルマホール）

2012年、新年おめでとうございます。

去年は東日本大震災と原発事故で、多くの方が被災されました。福島県では、いまなお故郷に帰れず避難生活を余儀なくされている方が16万人もいらっしゃいます。被災されたすべての方々が、一日も早く元の生活をとり戻せるよう、力を合わせて支援をしてまいりましょう。

憲法九条を守り活かそう

私たち「こまえ九条の会」では、毎月9日と19日の日に狛江駅前「憲法九条を守り活かそう」という署名宣伝行動を行ってきました。2005年10月に会を結成して以来6年目になります。署名数は昨年未までに4167名。署名をされる方から「私が小学生だった頃、友達が空襲で亡くなったのよ。なにもなくてねえ、みかん箱が棺だったわ。戦争は絶対やったらダメ」

「私も調布で九条の会の活動をしています」など、さまざまなお話を伺うことができます。

いま全国7000を超える九条の会が、こうした草の根の平和の世論を広げる活動を進めています。

民主党政権は昨年未、日本が武器を輸出したり共同開発したりできるように武器輸出三原則



東京大空襲の体験を語り、過去から学ぼうと訴える早乙女勝元さん（こまえ平和フェスタ2009、エコルマホール）

人々の命や平和、安全を守ってくれるのか、非常に大きな疑念が出ている」と指摘しました。

憲法第13条には「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする」とあり、25条には「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と定められています。

被災者の皆さんの現状は、まだまだこの憲法の理念からほど遠い現状にあります。姜さんは「まっとうに生きようとする人々の知恵があり、必ずや社会を変えていくことができる」とも訴えました。一日も早く被災者の平穏な日常生活をとりもどすために、力を合わせましょう。

北朝鮮問題、対話による解決を



講演する蓮池透さん（2009年11月、中央公民館）

北朝鮮の金正日総書記の死去に伴い、今後の日本と北朝鮮の関係が問題になっています。

2009年11月狛江市の中央公民館で講演した拉致被害者家族会の元事務局長蓮池透さんは「コミュニケーション（対話）やネゴシエーション（交渉）がなければ、

真実の解明はできない。去年の合意と日朝平壤宣言が糸口になる。日本は過去の侵略戦争の清算について、具体化し準備して交渉に臨んでほしい」と語りました。

私たちも、拉致問題や核の問題、過去の戦争の問題など、対話と外交努力によって解決すべきと考えています。それが日本国憲法の指し示す方向だと思うからです。

日朝平壤宣言の概要 ①日本側は過去の植民地支配に痛切な反省とおわびを表明、②北朝鮮側は日本国民の生命と安全にかかわる懸案問題の再発防止措置を確認、③朝鮮半島の核問題解決のため国際合意の順守、関係諸国の対話促進の必要性を確認、④2002年10月中に国交正常化交渉を再開

沖縄普天間基地は無条件撤去を

沖縄は戦後66年、米軍機による騒音や事故、米兵の犯罪の脅かされてきました。日本の総面積のわずか0.6%しかない沖縄にいまも



日本の米軍基地の74%が集中し、普天間基地や嘉手納基地など米軍専用基地が33も置かれたままです。イラク戦争やアフガン戦争には、沖縄米軍基地から大量の兵士が送り込まれ、罪のない多くの人々の命が奪われました。

いまレビン米上院軍事委員長が「辺野古移設」は「実現不可能」とのべるなど米議会でも新基地建設は困難だという声が広がっています。自公政権時代に普天間問題に直接かかわってきた岡本行夫元首相補佐官でさえ「辺野古移設はもはや不可能だ」と述べています。

住宅密集地のど真ん中にあるもっとも危険な米軍普天間基地は、辺野古への移設でなく、無条件で撤去すべき、この声を広げましょう。



九条の会の呼びかけ人の一人、故井上ひさしさん（写真）は、著書の中で「戦争や、病気で苦しんでいる世界の人々を助けるために、日本ができることは、武器や兵士を国外に送ることではないはず。日本は力がある国ですから、その力を世界の人たちの役に立つ方向に使える、りっぱに生きていけます」と語っています。

「あたらしい憲法のはなし」（1947年8月、文部省発行）より「こんどの憲法で、日本の国が、けっして二度と戦争をしないように、二つのことを決めました。その一つは、兵隊も軍艦も飛行機も、およそ戦争をするためのものは、いっさいもたないということです。…これを戦力の放棄といいます。…しかしみなさんは、けっして心細く思うことはありません。日本は正しいことを、ほかの国よりさきに行ったのです。世の中に、正しいことぐらい強いものはありません。…」

あなたもいっしょに 平和・命を大切にする社会へ

*お問い合わせは、1面下段の連絡先へ。